« La laïcité française et l'émancipation des femmes : vers une égalité réelle ? »

フランスのライシテと
女性解放
―真の平等に向けて？―

2024年2月17日(土) 14:00～16:00

日本語解説付　事前予約不要

東京大学駒場キャンパス(対面のみ)

101号館11号室EAAセミナールーム

講演者　Valentine Zuber

ヴァレンティーヌ・ズュベール

フランス高等研究実習院(EPHE)教授

宗教学者。ライシテと人権に関する著作多数。主著に『人権の宗教的起源』(未邦訳；2017年)、『論争の中のライシテ』(未邦訳；2017年)、『忘れられた憎悪』(未邦訳；J.ボベロと共著；2000年)。

司会者　Kazuo Masuda

増田　一夫

東京大学名誉教授

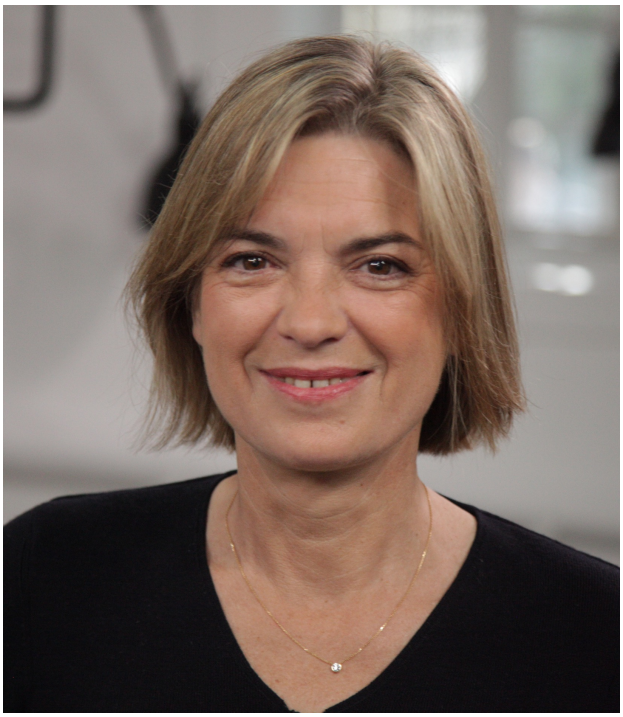
哲学者。近著に「定言命法の裏帳簿――カントの死刑論を読むデリダ」(高桑和巳編『デリダと死刑を考える』白水社、2018年)、「喪のポリティクス――デリダ、「私は死で動いている」の射程」(岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』書肆心水、2017年)。

コメンテーター Kazumi Sato

佐藤　香寿実

芝浦工業大学特任講師

人文地理学者。主著『承認のライシテとムスリムの場所づくり――「辺境の街」ストラスブールの実践』(人文書院、2023年)で「渋沢・クローデル賞」奨励賞受賞(2023年第40回)。



フランスでは近年、ライシテと女性解放が、互いに不可分の「共和国の価値」として語られるようになっている。ライシテを男女平等と結びつける言説はどのようにして生まれたのだろうか。二〇世紀におけるライシテと女性解放の歴史を辿りなおすことで、今日のフランス社会で広く共有された言説に潜む逆説を批判的に暴き出すだけでなく、真の女性解放と男女平等の実現に向けた道筋を探る野心的な講演。

主催：「西洋社会における世俗の変容と「宗教的なもの」の再構成－学際的比較研究」 (代表：伊達聖伸)
共催：東京大学東アジア藝文書院（EAA）

EAA | 東アジア藝文書院
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS